

一般社団法人
全国高等学校PTA連合会 会報 No.90

一般社団法人全国高等学校PTA連合会
(連絡先) 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1 (奥田ビル) TEL.03-5835-5711 FAX.03-5835-5757
発行人 牧田和樹 URL <http://www.zenkoupren.org/> eメール info@zenkoupren.org



「kyoから!未来を拓く」を受け継ぎ、創る新たなストーリー」をテーマに、令和元年の8月22日(木)・23日(金)に、第69回全国高等学校PTA連合会大会京都大会が、開催されました。京都の地で、全国大会を開催するのは、第69回目にしてはじめてのことです。

京都府立高等学校PTA連合会と京都市立高等学校PTA連絡協議会が、全国大会をはじめ、主管することで、不安を抱えながらの大会準備と運営ではありましたが、大会には、約10,300名の方にご参加いただきました。

開催会場は、京都市左京区岡崎にある平安神宮近くの「ロームシアター京都」と「京都市勧業館みやこめっせ」の2館を会場といたしました。

大会1日目の全体会(開会式・表彰式等)は、ロームシアター京都のメインホールで執り行いました。参加者のみなさんには、それぞれの分科会会場で、ロームシアター京都メインホールからの映像配信により、全

「kyoから!未来を拓く」を受け継ぎ、創る新たなストーリー」をテーマに、令和元年の8月22日(木)・23日(金)に、第69回全国高等学校PTA連合会大会京都大会が、開催されました。京都の地で、全国大会を開催するのは、第69回目にしてはじめてのことです。

京都府立高等学校PTA連合会と京都市立高等学校PTA連絡協議会が、全国大会をはじめ、主管することで、不安を抱えながらの大会準備と運営ではありましたが、大会には、約10,300名の方にご参加いただきました。

開催会場は、京都市左京区岡崎にある平安神宮近くの「ロームシアター京都」と「京都市勧業館みやこめっせ」の2館を会場といたしました。

大会1日目の全体会(開会式・表彰式等)は、ロームシアター京都のメインホールで執り行いました。参加者のみなさんには、それぞれの分科会会場で、ロームシアター京都メインホールからの映像配信により、全

CONTENTS 今号の主な内容

全国大会 京都大会	1	定時総会報告	13
分科会報告	3	令和元年度一般社団法人	
全国大会京都大会アンケート結果	6	全国高等学校PTA連合会役員・委員名簿	14
地区大会	7	組織概要・会員概況	15
北海道地区/東北地区/関東地区/東京地区/北信越地区/東海地区/近畿地区/中国・四国地区/九州地区		賠償責任補償制度のお知らせ	16

全国高等学校PTA連合会賠償責任補償制度のお知らせ
あなたの学校も加入しませんか?
全国加盟高校の2校に1校が加入しています。

掛金

年間 **400円** (保険料 391円 + 制度維持費 9円) × 生徒数
※補償開始日が平成31年4月1日の場合、補償期間中の加入については、月ごとに掛金が減額となります。

補償期間

令和2年4月1日～令和3年4月1日

補償の範囲と支払済高額事故事例 <生徒もしくはPTAに過失があった場合が対象となります>



補償の範囲	補償限度額	事故発生件数割合
1. 生徒の行為に起因する賠償責任 (生徒個人の賠償責任)	対人・対物合算 (注) 1事故1億円 自己負担額 1事故5千円 (注) 対人事故・対物事故合算して1億円が限度となります。	99%超
2. PTA活動の遂行に起因する賠償責任 (PTAの賠償責任保険)	対人 1名5千万円・1事故5億円	1%未満
	対物 1事故5千万円	
	自己負担額 1事故1千円 (注) 対人事故・対物事故それぞれに適用されます。	
保管物	加害者1名 10万円 保険期間中 500万円 自己負担額 1事故5千円	

年度	支払金額 (千円)	事故内容
H19年度	87,915	無灯火の 自転車 で歩道を走行中、後ろから人に追突し転倒させ、脳挫傷により要介護状態となり、死亡させた。【過去最高支払金額】
H24年度	40,206	自転車 で歩行者と衝突し、脳挫傷を負わせ、死亡させた。
H24年度	20,040	ゴルフの練習中にゴルフクラブが友人の左目にあたり失明。
H26年度	23,602	自転車 で歩行者に後ろから衝突し、脳挫傷を負わせ、死亡させた。

★上記のとおり自転車による人身事故が高額支払いになる傾向がありますが、**自転車事故に限らず国内における事故を24時間、幅広く補償しております**★

詳しくは、「全国高P連賠償責任補償制度」手引き・チラシをご覧ください。
(各学校へ1月下旬にお送りしています。)

●制度についてのお問い合わせ窓口

一般社団法人 全国高等学校PTA連合会
東京都千代田区神田佐久間町2-1
奥田ビル301号
TEL.03-5835-5711

●引受保険会社

引受幹事保険会社 東京海上日動火災保険株式会社 TEL.03-3515-4133
(担当:公務第二部 文教公務室)
引受代理保険会社 三井住友海上火災保険株式会社 TEL.03-6848-8480
損害保険ジャパン日本興亜株式会社 TEL.03-3259-4061
損害保険ジャパン日本興亜株式会社 TEL.03-3349-9588

AIG 高校生外交官プログラム
一般社団法人 全国高等学校PTA連合会後援
AIG 高校生外交官プログラム (参加費無料)
<http://www.highschooldiplomats.org>

「育てたいのは、子供たちの未来。」
私たちは AIG 高校生外交官プログラムを協賛しています。
AIG 損害保険株式会社
tel:03-6848-8500 <https://www.aig.co.jp>

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上
三井住友海上の安心
GK
7/24の保険
住まいの保険
先付けの保険
www.ms-ins.com

挑戦の数だけ、保険がある。
To Be a Good Company
東京海上日動
TOKYO MARINE NICHIDO

SOMPO
ホールディングス
保険の先へ、挑む。
損保ジャパン日本興亜
損保ジャパン日本興亜は SOMPOホールディングスの一員です。
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
TEL. 03-3349-3111
(公式ウェブサイト) <http://www.sjnk.co.jp/>



京都府立工業高等学校 Mambow Jazz Bandのみなさん

しかしながら、多くの大学訪問コースで、10名から20名の当日キャンセルがあり、募集期間中に、定員を充足した後に申し込みをされ、参加のお断りをさせていたいただきました。心よりお詫び申し上げます。

大会2日目は、京都市立塔南高等学校の「塔南マーチングバンド・ザ・グリフォンズ」の元気な演奏と京都府立鳥羽高等学校の節をつけて和歌を詠む「披露」が、開催前のアトラクションとして行われました。

お陰様で、約1箇月間の募集期間にも拘わらず、募集開始の1、2日で申し込み者が定員を充足し、京都への関心の高さを実感いたしました。

ました。講師の熱のもった講演と飽きることのない質疑応答は、今でも記憶に残っているところです。

記念講演後、会場をロームシアター京都からみやこめつせの3階に移して、全国高等学校PTA連合会（全国高P連）の担当理事による分科会報告と閉会式が行われました。閉会式では、全国高P連の旗が、主管した京都から全国高P連会長に返還され、更に全国高P連会長から次期開催県である島根県に授与されました。

閉会式終了後には、最後まで大会に参加いただいたみなさんに、ステイジの高いところからではありましたが、京都大会実行委員会の委員長と副



永守重信氏

委員長が、お礼の見送りをいたしました。

また、各会場の出口では、京都のスタツプが見送りをいたしました。会場を後にされるみなさんから笑顔で「ありがとう」「大会、お疲れさまでした」「とっても楽しかった」「よい大会でした」など、スタツプに声をかけていただきました。

大会の準備や運営に少なからず戸惑い苦労してきた京都のスタツプにとつて、たくさんのお声掛けは、何よりもご褒美となりました。塔南マーチングバンド・ザ・グリフォンズ 大会は、これ

までの全国大会の開催ガイドラインと新ガイドラインを発展的に受入れることで、準備と運営に努めて参りました。

平成30年2月3日に開催された平成29年度第7回全国高P連理事会において、全国大会開催ガイドラインの改正が承認されました。新ガイドラインは、第70回全国大会島根大会から適用されることになりましたが、第69回全国大会京都大会も、可能な限り新ガイドラインをトライアルすることになりました。これを受けて、当時の京都の大会準備スタツプは、

「大会1日目の開始を午後開始とし、昼食は各自で取っていただく。」「分科会を従来の7分科会から6分科会とし、4つの分科会を京都で企画する。」

「全体会での基調講演と記念講演を1つにまとめる。」等を、京都大会でトライアルし、特色ある大会を目指したところ。特色の一つ目として、大会が行われない1日目の午前を利用して、「京都ならではのプログラム」として、大学、企業及び文化財訪問コースを

企画いたしました。二つ目には、従来の加盟校が実践発表する分科会がなく、主管が4つの分科会のテーマと企画を担当することになりました。分科会では、基調講演とパネルディスカッションを基本としながら、参加者自らも積極的に参加していただける分科会を企画いたしました。

三つ目の特色として、全体会での講演を1つとすることや全体会会場と分科会会場の移動時間をなくすることなどにより、これまでの1日半で開催されていた大会内容を大会1日目の午後と2日目の午前合わせて1日の時間帯で収まるよう、スケジュールを作り上げました。

新しいガイドラインのトライアルで、これらの特色ある大会となり、また、経費節減や負担軽減にもつながった大会となりました。

来年度の第70回全国大会島根大会は、新しいガイドラインに基づいて開催されます。京都大会のトライアルが、今後の充実した全国大会開催につながるものと期待いたします。 (京都大会実行委員長・奥野貴史)

1 KYOTO 2019 第69回全国高P連京都大会 第一分科会

〈よくできる〉こととはどういうことか？

京都会議のメインホールに約2,400人の参加をいただき、基調講演とパネルディスカッションの2部構成にて行われました。基調講演では、歌人



永田和宏氏による基調講演

で京都産業大学タンパク質動態研究所 所長、京都大学名誉教授の永田和宏氏にお話をいただきました。90分間の講演でしたが、改めて気付かされるような意味深い話ばかりで、かつ、笑いもありりやかな雰囲気にも包まれたあつという間のひとときでした。今回のテーマになつている、「よくできる」こととはどういうことか？

2 KYOTO 2019 第69回全国高P連京都大会 第二分科会

子どもたちを育む環境づくり

地域社会の現状と次世代を見据えて

第二分科会は、初めての取り組みとして、グループワークによる意見交換会（京・みやこカフェ）をおこないました。子どもたちの支援には、学校・家庭・地域社

会が目標を共有して連携・協働することが大切なこととされています。その実現のために、これまでの子育てを振り返り、地域の中で子どもを育てる上で、子どもとどのよ

に対する永田氏の考えは、「入学試験問題のようには与えられたものや問いに対して、いかに正しく答えられるか？ではなく、いかに「問う」ことができるかを身に付けるかが重要」ということでした。つまり問題解決能力でなく、問題発掘能力を身に付けるトレーニングをしないといけない、と永田氏は力説されていきました。その為に永田氏は、大学の講義において学生に必ず質問をさせ、更にはその質問内容にも学生に熟考させ、こだわりを持たせている、とのことでした。

このような考え方より永田氏は、「高校は学習のうに向き合えば良いかをテーマに話し合いました。6人程度の小グループで意見交換ができるように、広い会場にテーブルとイスがセットされて、進行役のファシリテーターのもと活発な話し合いがなされました。はじめのうちは、なかなか話し合いの進まなかつたテーブルも共通の話題が出てくると話が盛り上がり、まともな発表することでも忘れて熱中す

場であるが、大学は学問の場、すなわち単なる学ぶ場ではなく、学んで問い直す場である、と表現されていきました。

なぜ学問をするのか？という問いに対しては、自己の可能性への信頼や「自分はできるんだ」という確信を持つために学問する、とのこと、他人の評価で自分の限界を変えたりしないことや、挑戦や挫折の必要性を訴えられました。また永田氏は歌人でもありますので、言葉の力を身に付けることの重要性も訴えられました。例えば「ヤバイ」という言葉を現在の子どもたちはいろいろな意味で使いま

す。そして受け入れる側の我々大人もその意味を時と場合によって区別するように努めている現状があると思います。しかしそれでは子どもたちの「自分の言葉で自分の心を表現し、様々な想いを伝える技術」が衰えてしまっている、日本語が衰退してしまっていることを懸念されていきました。改めて私自身も子どもたちの言葉の使い方や指導していくことの必要性を感じた次第です。

京都府立嵯峨野高等学校校長の小川雅史氏をコーディネーターとして行われた第2部のパネルディスカッションでは、パネラーの方々だけでなく、会場の方々からもた

くさんの質問が飛び交い、活気溢れる有意義なディスカッションとなりました。

最後に私自身この分科会では、①命じられたことだけをして自分で考えなければ成長しない、大学は学問の場であり、しっかりと学問をして確固たる自信を付け、自己肯定感を持つこと②自分の言葉で自分の心を表現すること、以上2点の重要性を学ばせていただきました。改めて大学の存在意義の大きさを痛感すると共に、子どもたちと共に日本語を大切に想い、そしてもっと楽しんで言葉を使って自分の心を表現したいと思いました。

今後とも続けてほしい分科会であると思います。



ファシリテーターによる指導

は、学校・家庭・地域社

るグループがいくつもあ

のでした。



第3分科会

すぐその未来の仕事

～Society 5.0において求められる人材像、学びの在り方～

第三分科会「すぐその未来の仕事」ともに考える Society 5.0 において求められる人材像、学びの在り方」は講師として株式会社片岡製作所より代表取締役の片岡宏二氏、O&S 株式会社より代表取締役副社長の加藤理啓氏、コーディネーターとして岡山



パネルディスカッション風景

大学全学教育・学生支援機構准教授の中山芳一氏を招き、700名ほどの参加者とともに社会や技術の変革の真つただ中にある現在の教育について講話をいただきました。片岡氏からは社業であるリチウムイオン電池開発から今後更なる発展が期待される AI にわた

開発した学級経営ツール Class を参加者が体験し、教室の中から学びを変えるイノベーションについて語っていただきました。それを踏まえ、中山氏を交えたパネルディスカッションにおいて、これから社会や企業から求められる子どもたちの資質について片岡氏からは「自分から物事に取り組み能動性を育むことが大切」、加藤氏からは「体験させる環境に身を置くこと」との意見が出され、まとめとして中山氏から「体験↓経験↓学び」、P D C A に代

わる「Anticipation (見通し) ↓ Action (行動) ↓ Reflection (振り返り)」のサイクルを提案いただきました。講話の中で、AI にまつわる誤解について説明する箇所がございました。ディープラーニングに代表される情報分析により、世の中の職業の多くが数十年後にはなくなるといことがメディアにも取り上げられている中、AI が得意な分野と人間にしかできない分野といった仕事に分けて、丁寧論じていただきました。来たる Society 5.0

の中心技術について親世代が理解を深めることとともに、世界の変化に対応する努力を惜しまないことがこれから社会に出て活躍する子どもたちを後押しするものであると感じ入ったところです。最後に、本分科会の開催にあたり京都府立高等学校 P T A 連合会および京都市立高等学校 P T A 連絡協議会の皆様には大変なご尽力を頂き盛会となりましたこと、一参加者といたしましても大きな気づきと学びの機会を得られましたことに心から感謝申し上げます。



第4分科会

高校生の人間関係について考える

～高校生の本音を聞いてみませんか～

まず、会場は空席が目立たないほど、沢山の受講者でいっぱいでした。講師である原氏のユーモアたっぷりの巧みな話術でパネリスト(高校卒業して1年内の大学生)や受講者は終始引き込まれていました。現代の高校生は特に身の周りに本音を言いたがりませんが、

が実った。等、各人の感情が思い起こされ中には涙ぐむパネリストもいた。「親に高校生時期こんなことをして欲しかった。」では、受験に際して、受験費用・大学授業料等の金銭に関し、はっきり話して欲しかったという人がいる反面、逆に兄弟と比較されるなら言わないで欲しかった等、人それぞれの意見が出てきた。「先生に高校生時期こんなことをして欲しかった。」のところでは、感謝しているという意見やもつとコミュニケーション

シオンを取りたかった。等の意見が出ていた。上記各論に対しては、実際会場にいる受講者の中から講師が親の意見を出させたり先生の立場からの意見を聞いたたり、飽きさせない工夫もあり受講者は聞き入っていた。偶然ではあるものの、壇上のパネリストの高校生時代の先生が受講者として意見を言う場面もあり更に

記各論に対しては、実際会場にいる受講者の中から講師が親の意見を出させたり先生の立場からの意見を聞いたたり、飽きさせない工夫もあり受講者は聞き入っていた。偶然ではあるものの、壇上のパネリストの高校生時代の先生が受講者として意見を言う場面もあり更に

盛り上がりがあった。最終の報告で、私が述べさせていたのと同様ですが、あえて言うならばパネリストの大学生がとて優秀な方々ばかりだったのも、もうちょっと違った視点を持つ高校卒業生(就職している方)等をパネリストに含めても良かったのかなと感じました。全体を通じて、講師の力によりあつという間に時間が過ぎていくということも良い分科会であったと思います。ありがとうございました。



パネルディスカッション風景



第5分科会

情報教育を体験する

～現代の子どもが学ぶ情報教育を体験してみませんか?～

第5分科会は、今年度初めての取り組みとして、賛助会員としてご協力いただいている企業の企画分科会として実施されました。LINE株式会社より

演をしていただき、その後、LINE株式会社が、各地の学校で行っている情報モラルやプログラミング教育など、児童生徒向け授業の体験ワークショップが行われました。ワークショップでは、小学生、中学生の気分になつて、講師の説明や指示に従つて、授業を経験しました。多くの生徒が携帯電話を持ち、高校生になるとスマホの所有率が90%を超える現実の中で、SN

Sに関するトラブルの予防策や個人情報管理、特にいじめや詐欺的な勧誘、金銭のトラブルなど、保護者の知らないところや見えないところで、実際に起きているデメリットに目を向けつつ、情報モラルだけではなく、プログラミング的思考や活用方法などを学べる機会となりました。講演を一方的に聞くのではなく、参加型のワークショップは、体験できる事によって、より理解

が深まったことと申します。この経験を、学校や家庭でSNSの利活用を考える切っ掛けになれば良いと思います。一つ残念だったことは、プログラムが小学生を対象とした内容が多く、高校生を持つ保護者が参加しているワークショップとしては、今後工夫が必要であると感じました。



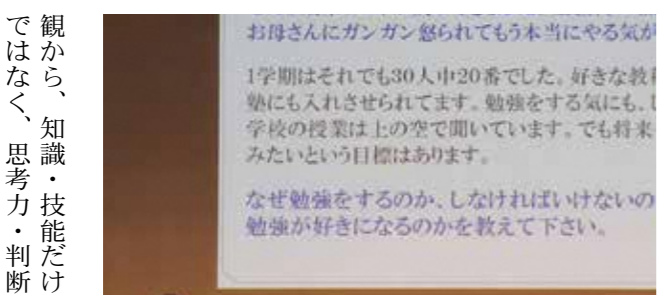
ワークショップ風景



第6分科会

～第69回全国高P連京都大会

第6分科会は山下真司様、石田勝紀様お二人の講師にテーマについてそれぞれ75分ずつ講演いただきました。リクルートキャリアガイダンス編集長の山下様は、「子どもたちが歩むこれからの社会は?」「大学教育、高校教育、そして入試が変わる。新しい時代にふさわしい高大接続の実現」「これから生きる子どもたちと保護者とし



山下真司氏による講演

力・表現力を育み主体性と協働性をもつて多様な人々と学ぶ態度を養うために、教科・科目構成の改訂や探究を深める総合的な探究の時間の充実、評価方法の多面化、入試のあり方の変革が進むとのことで、そのよ

というお話では、家庭内でのコミュニケーションを深め、同時に学校を教科学習だけにとどまらない、多様な体験と学びの場にするために、保護者が学校を応援することが求められる、とのこと、PTA活動の意義についても言及下さいました。石田勝紀さまは、「新しい時代を生きる子ども達の才能を引き出す言葉」と題して、「ご自身の20歳からこれまでの様々な経験や活動から見出した子どもの力を引き出すマジックワード」について解説下さいまし

した。考える力、創り出す力、自己肯定感などが豊かな地頭のいい子どもを育てるために親がかける言葉は、「ありがとう」「いいね」など普段自然に使っているもので、大切なのはイライラした気持ちで使わないということでした。全体を通して感じたのは、子どもの学びは、親が学校任せではなく、学校を支えながら、我が子の可能性を信じコミュニケーションを深める姿勢を心掛けることが大切であるということでした。

令和になって最初となる第68回東北地区高等学校

地区大会報告

一人ひとりの個性が奏であう未来へ

自立・協働・創造を目指して

校PTA連合会山形大会は、二人ひとりの個性が

奏であう未来へ自立・協働・創造をめざして

のテーマのもと、7月4日(木)・5日(金)、山形市総合スポーツセンターを会場に開催されました。

4日には大会運営会議の他、出席者570名による情報交換会が盛会に

行われました。5日の大会は、東北各地から1,500名を超える参加者を迎え、オープニングとして、東北で唯一公立高校に音楽科のある山形県立山形北高校

東北地区 山形大会 YANAGATA

第69回北海道高等学校PTA連合会大会(胆振・日高大会)は6月1日・2日の二日間にわ



開会式

ら1千14名が参



参加者の皆さん

高橋憲司大会実行委員長、牧田和樹全国高P連会長の

切であり、今大会での多くの人の交流の中から得た事柄を自校のPTA活動に生かして欲しい」と訴えま

手自身を考えさせ、やる気を出させ、自ら練習に

分科会風景

たり苦小牧市で開催されました。苦小牧市が位置する胆振東部から日高にかけての地域は競走馬サラブレッドの主産地として全国に知られており、現在では観光資源ともなっています。今大会は「新しい元号がスタートし、次代の担い手となる子どもたちが、変化の激しい時代を力強く生きていくために、今、私たちにできることについて、自然とモノづくりが融合する胆振・日高の地で熱く語り合いました。よろこぶ大会メッセージとして、

加し開催されました。開会式では、始めに新井田寛会長が登壇し、昨秋の胆振東部地震の犠牲者を悼んだ後、「AIやIoTなど情報社会の発達は新しい時代を創るからこそ、人間が本来保有している能力を伸張し活かしていくことが大切である、今大会での多くの人の交流の中から得た事柄を自校のPTA活動に生かして欲しい」と訴えま

抜擢の後、来賓の佐藤嘉大北海道教育委員会教育長、宮下聡北海道高等学校長協会会長から祝辞をいただきました。さらに、当連合会に功績のあった1団体と個人20名、単位PTA役員として貢献した91名に対し表彰が行われ、開会式を終えました。

取り組ませる」ことにより、若手選手が成長していった具体的な場面を例に、コーチングの在り方について熱く語りました。参加者からは、高校生の親である自分にとっても子育ての在り方に多くの示唆を与えられたとの声が寄せられました。

科会は、胆振・日高の28校のPTAが運営にあたりました。来年度は、札幌市で第70回という節目の大会が開催されます。なお、大会に先立って開催された総会では、令和元年度の事業として、「支部ページ」の導入等ホームページの刷新による内容面や機能面での充実、ワールドカフェ方式での「高校生と語るつどい」の本格実施を始めとする事業・予算などが了承されました。

地区大会報告

「身近な人と結ぶ信頼の絆」

北海道地区 胆振・日高大会 IBURI / HIDAKA

地区大会報告

DISTRICT MEETING REPORT



新井田寛会長



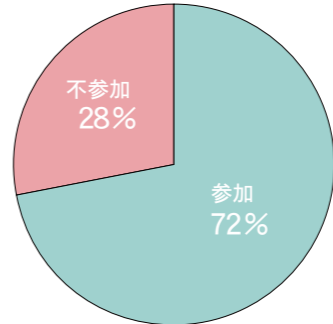
全国大会京都大会 アンケート結果

全国高P連アンケートシステム

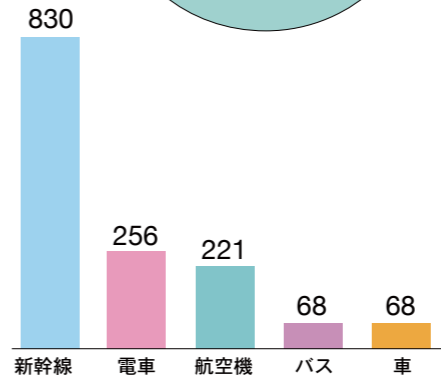
第69回全国高等学校PTA連合会大会「京都大会」のアンケートを10月9日〜23日、11月1日〜8日まで実施いたしました。2,003名のご協力をいただきました。

Q1 京都大会に参加されましたか?

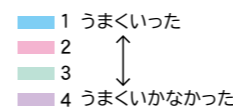
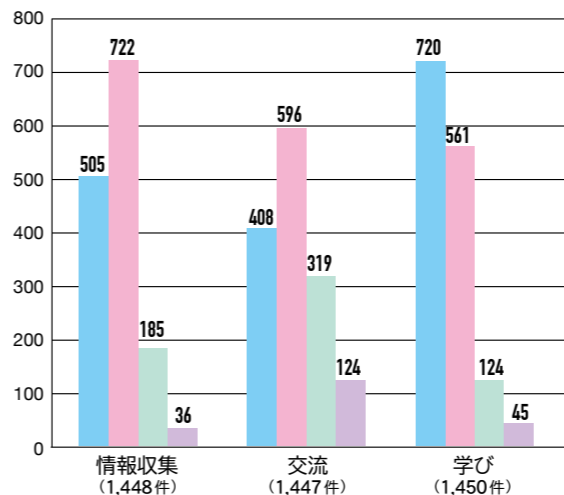
参加	不参加
1,435	553



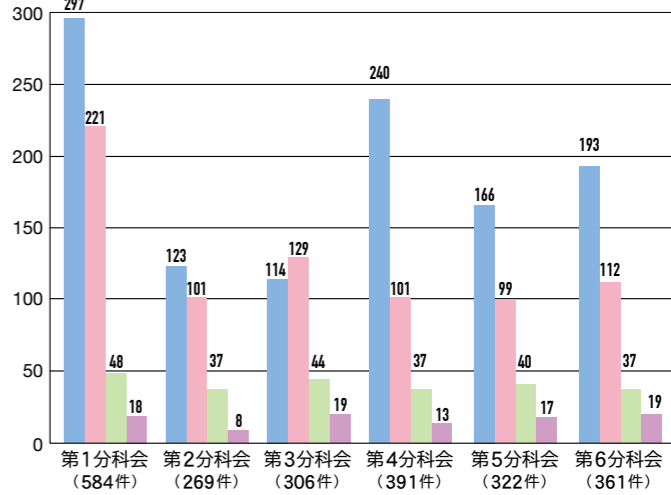
Q2 参加された方にお伺いします。京都大会への主な交通手段を教えてください。



Q3 代表的な目的についてお尋ねします。満足度はいかがでしたか?

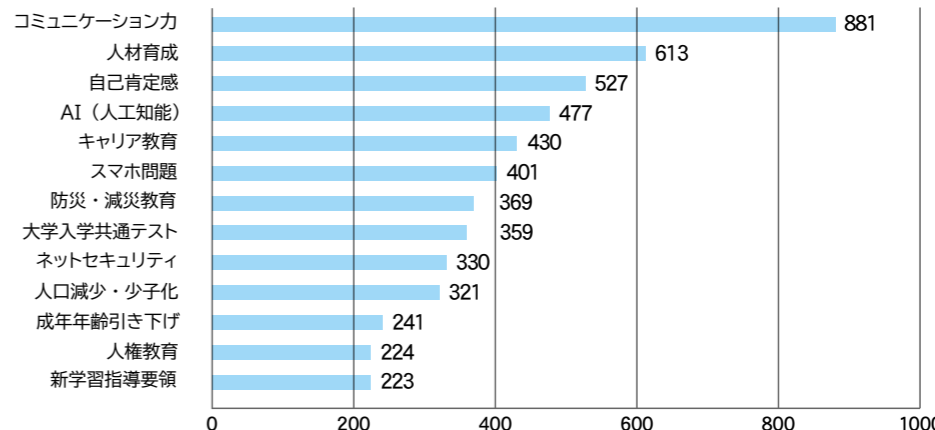


Q4 参加した分科会についてお尋ねします。満足度はいかがでしたか?



Q5 今後どのような内容の研修を受けたいですか?

今後どのような内容の研修を受けたいですか?



令和元年7月6日(土)、全国高P連牧田和樹会長代理 大石幸和副会長にご出席いただき、東京都経営企画室長会長長澤田悟様、東京都公立高等学校退職校長協会副会長で当連合会相談役もお願いしております天沼照夫先生にご出席いただき、第31回関東地区高等学校PTA連合会大会を開催いたしました。

今回の基調講演講師は、昨年の第68回全国高等学校PTA連合会大会佐賀大会でも講演いただいたレモンさん



基調講演

です。佐賀大会でのお話が忘れられず、ぜひ東京の仲間にも聞いて欲しいとお願いしました。ご自身もPTA会長をなさっていただけあって身近で、本当に子供のことを大事にしていることが伝わってくるお話でした。

そしてPTA事例発表では、東京都農業高等

学校PTA会長の元木朝子さんが「夢を創造する」をテーマに、農業高校の専門的な各科の紹介や生徒の学び、そしてPTAの取り組み、学校・PTA・家庭で子供を育てること



表紙が良かったので賞の投票風景

の大切さ、実践することの大切さなどを発表してくれました。

そして各学校から応募のあった広報誌の「広報誌コンクール表彰式」です。各賞は事前に決定していますが、当日会場に足を運んでくれた参加者みなさんに、広報誌の表紙を選び投票してもらい決める「特別賞(表紙が良かったで賞)」が注目されています。

未加盟校が増えている東京ですが、コンクールは未加盟校からの応募も多く、貴重な接点になっています。

アトラクションの生徒発表も充実した盛りだくさんの充実した内容でした。参加してくださった皆



アトラクションの生徒発表

東京地区
東京大会
「絆〜人と人とのつながり」
地区大会報告

TOKYO



第65回関東地区高等学校PTA連合会大会 埼玉大会総会



第65回関東地区高等学校PTA連合会大会 埼玉大会全体会開会式



第65回関東地区高等学校PTA連合会大会 埼玉大会記念講演会 講師/タレント・向井亜紀様



第65回関東地区高等学校PTA連合会大会 会場の皆様

さんが、何か持ち帰ってくださった地区大会になっていたら幸いです。



開会式では、地区のPTA活動に功績のあった45名の方々に表彰状・感謝状、広報紙コンクールの入賞校18校に表彰状が贈呈されました。さらに本年の東北地区役員紹介が行われました。

国高P連会長の挨拶、そして山形県知事、山形市長より祝辞をいただきました。

表による事例発表と質疑意見交換が行われました。特色ある取り組みに

は学校視察の希望があったり、共通する課題に理解を深めました。指導助言は、社会教育・生涯学習を専門とする山形大学地域教育文化学部准教授安藤耕己氏よりいただきました。



陰山英男氏

本一となった山形市立商業高校産業調査部による研究発表があり、レベルの高さに一同感心しました。

午後は、全国各地で教育アドバイザーとして活動されている陰山英男氏を講師に迎え、「常識を破って子どもを伸ばそう」との演題でご講演をいただきました。小学校から高校まで、幅広く子育てについて示唆に富んだお話しを伺いました。

大会フィナーレは、村山産業高校郷土芸能部「又新連(ゆうしんれん)」生徒40数名により、



山形市立商業高校



村山産業高校

を4日の情報交換会に提供してもらいました。最後に次期開催県から挨拶があり、来年の秋田大会での再会を期すとともに、千場実行委員長の閉会宣言により充実した大会の幕を閉じました。

関東地区
埼玉大会
「絆を深め、新しい時代を担う子どもたちを育てよう」
〜令和の夏、学び続けるPTAの熱い風が吹く〜

SAITAMA

1 テーマ
メインテーマ…「絆を深め、新しい時代を担う子どもたちを育てよう」
サブテーマ…「令和の夏、学び続けるPTAの熱い風が吹く」

2 埼玉大会日程等
(1) 埼玉大会開催期間 令和元年7月11日(木)〜7月13日(土)
(2) 総会・レセプション会場(7月11日(木))

パレスホテル大宮4F ローズルーム 〒330-0854
埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5
(3) 埼玉大会会場(7月11日(木)) 大会準備、7月12日(金) 全体会・開会式・記念講演会、7月13日(土) 第1〜第5分科会・閉会式
公益財団法人 埼玉県産業文化センター(大宮ソニックシティ) 〒330-0866 9
埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5 大宮ソニックシティ
(4) 大宮ソニックシティ内利用施設・教育視察
・埼玉大会受付・各県広報誌閲覧・大学生協連合ブース・お弁当引換コーナー・お土産コーナー…1Fフロア
・全体会会場(7月12日

ニックシティ) 〒330-0866 9
埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5 大宮ソニックシティ
(4) 大宮ソニックシティ内利用施設・教育視察
・埼玉大会受付・各県広報誌閲覧・大学生協連合ブース・お弁当引換コーナー・お土産コーナー…1Fフロア
・全体会会場(7月12日

(金)…大ホール及び小ホール(埼玉県) 各分科会会場(7月13日(土))
第1分科会…「学校教育とPTA」第1展示場
第2分科会…「進路指導とPTA」大ホール
第3分科会…「生徒指導とPTA」第2展示場
第4分科会…「家庭教育とPTA」小ホール
第5分科会…「安全教育とPTA」4F市民ホール・教育視察・Aコース「鉄道博物館」

川越街並」コース 21名参加
Bコース「川越市内」コース 29名参加
3 各分科会テーマ
(1) 第1分科会「学校教育とPTA」
変化の激しい社会において、個性を活かし、社会に貢献できる人材を育てる教育を支援する。
(2) 第2分科会「進路指導とPTA」
主体的・対話的で深い学びをとおして、子どもたちの夢の実現を目指す教育を支援する。
(3) 第3分科会「生徒

指導とPTA」
ルールやマナーを守り、思いやりの心を育てる教育を支援する。
(4) 第4分科会「家庭教育とPTA」
学校と地域の連携をとおして、家庭教育力を高め、親子の絆を深める教育を支援する。
(5) 第5分科会「安全教育とPTA」
子どもたちの「命」を守る教育を支援する。
右記の内容で、全体会分科会に2,309人の申込みを得て、行なわれた。

北信越地区

長野大会

NAGANO

「郷から未来を拓く」

受け継ぎ、創る新たなストーリー



開会式

長野大会は7月4日(木)・5日(金)の両日、長野市のホクト文化ホール・メルパルク長野の2会場で、「郷から未来を拓く」を受け継ぎ、創る新たなストーリーをテーマに開催されました。前日までの雨も当日朝には

じたことを、是非一緒に参加された皆様・ご家族・学校の先生方との対話のきっかけにして下さい。皆様にとって有意義な2日間になるようお祈り致します。」と挨拶がありました。その後、全国高P連牧田和

樹会長の挨拶、また、ご来賓の長野県教育委員会原山隆一教育長様・加藤久雄長野市長様よりご祝辞をいただきました。そして、各県でPTA活動に功績のあった33名の方に對して感謝状と記念品の贈呈が行われました。

ホールで3分科会、メルパルク長野で1分科会と分かれての開催でしたが、各県からの特色あるPTA活動20例の実践発表に活発な質疑応答や意見交換が行われ、充実した分科会となりました。

二日目の記念講演は、信州大学教育学部の結城匡啓教授より「金メダリスト小平奈緒の成長を支えてく選手的能力を最大限に伸ばすコーチング」と題してご講演を頂きました。

したものになりました。特に結城先生の指導方針「情報の与え方が、コーチとしての勝負だと思っ



生徒アトラクション

夕刻から行われた教育懇談会では、820名程の参加者が2会場に分かれ、地元の食材を使った料理や、信州の銘酒に舌鼓を打ちながら、各県単Pの枠を超えてお互いの懇親を深めることができました。

開会式では、長野大会の大会宣言が決議され、次期開催県福井県高P連の齋藤力会長より「来年福井で開催される北信越地区研究大会では、皆様とともにPTA活動を考える充実した大会にできるよう今から実行委員の力を結集し、計画を進めてまいります。多くの皆様の参加をお待ち

結城匡啓氏

「情報」の与え方が、コーチとしての勝負だと思っ

東海地区

岐阜大会

GIFU

地区大会報告

東海地区高P連では、地区大会開催日の午前中

に各県役員による総会を行い、午後から大会を開

催しています。6月14日(金)、令和元年度東

海地区高等学校PTA連合会「岐阜大会」を、岐阜市の長良川国際会議場で開催し、東海4県から1,459名の皆さんが参加がありました。

開会式では、東海地区高P連の國井重安会長、全国高P連の牧田和樹会長が主催者として挨拶し、来賓の岐阜県教育委員会教育長の安福正寿様、岐

阜県高等学校長協会会長の高木俊明様から祝辞をいただきました。



結城匡啓氏

開会式に続き、岐阜県高山市出身のNPO法人地球のステージ代表理事

近畿地区

和歌山大会

WAKAYAMA

地区大会報告

「家庭での子供との「ミニ」セッションの大切さ」



岐阜大会開会式

で心療内科医の桑山紀彦氏が「地球のステージ」ほんとうのしあわせってなんだろう」というテーマで公演を行いました。桑山氏は日本で医師とし

らのもので、紛争と貧困・国際理解・世界平和・環境問題の中で、命の尊さ、生きるこの意味、家族や仲間の大切さ、人の優



各務原高校の発表

しさなどについて改めて考えさせられるものでした。また、世界の子どもや若者の困難に立ち向かいながら直向きに生きる姿やさわやかな笑顔が、我々参加者に感動と勇気を与えてくれました。

い、岐阜県立各務原高校PTAが「協同」のPTA活動を目標として、静岡県立天竜高校PTAが「地域の未来を考えるPTA活動」というそれぞれテーマで発表しました。各務原高校は、年5回のあいつ運動、800食以上を販売する文化祭



天竜高校の発表

的に参画できる人材の育成を目指しており、「天竜ゼミナール」と名付けられた地域活性化をテーマにした探求活動を積極的に展開しています。このような中、PTA役員による就職希望者に対する模擬面接、地域で活

最後に、次年度開催県の三重県を代表して、太田秀典副会長が閉会の挨拶を行い、次年度は令和2年6月19日(金)に津市の「三重県総合文化センター」で開催することをお知らせし、無事に大会を終えました。

7月6日(土)、第45回近畿地区高等学校PTA連合会大会和歌山大会を「家庭での子供とのコミュニケーションの大切さ」をテーマに、近畿9府県市から2,000人を超える方々にご参加いただき、和歌山県民文化

会館大・小ホールに於いて開催致しました。午前中の開会式では、主催者挨拶、来賓祝辞に続いて、近畿地区高P連広報紙コンクール入賞校の表彰式及び本年3月末をもって退任された各府県市高P連会長・事務局

長並びに前年度近畿大会実行委員長に感謝状と記念品が贈られ、受賞者を代表して平成30年度奈良県高P協議会の河野信子会長が謝辞を述べられました。

清原伸彦先生を講師に迎え、「清原流人を創る」と題してご講演をいただきました。講演を聞いた参加者の皆さんからは、「感動で涙が出てきた」、「集団行動ということですが、実は真逆で一人一人を大切にしていた」、「子供を立派に育てるには、先ず自分が立派であることに気づかされた」



清原伸彦氏

等の感想がありました。午後は、これまでの実践発表をパネルディスカッションに替えて開催しました。大阪体育大学岸田正幸教授にコーディネーターをお願いし、各府県市を代表して6名のパネラーの皆さんから様々な親子関係の話があり、参加者の皆さんも今一度親子関係を見直す機会になったと思います。また、この大会でも高

令和元年6月22日全国高等学校PTA連合会の定時総会が行われました。文部科学大臣柴山昌彦様ご臨席の下、盛会の中終えることができました。第1号議案 平成30年度



柴山文部科学大臣

令和元年度 定時総会報告

ORDINARY GENERAL MEETING REPORT

- 事業報告 平成30年度
- 第2号議案 収支決算報告・監査報告
- 第3号議案 令和元年度役員選任
- 第4号議案 令和元年度会長・副会長・専務理事・常務理事の選任及び会長選出地区補充理事の選任



令和元年度理事・監事・顧問



会場

21日(金)には、まず午前中に福岡国際会議場と福岡サンパレスホテル&ホールにおいて分科会が開催されました。第1分科会は「青少年の健全育成とPTA活動」のテーマで鹿児島県、熊本県、佐賀県、宮崎県からの実践発表、第2分科会は「進路指導とPTA活動」のテーマで長崎県、大分県、沖縄県、福岡県からの実践発表がありました。この発表を通して得たヒントを学校に持ち帰り、いろいろな新しい取り組みなどを考えていきたいといったご意見をいただきました。第3分科会は「主体的な防災とPTA活動」のテーマでパネルディスカッションが行われました。基調講演では、元熊本県立熊本工業高校定時制教頭の富田孝一先生から「熊本地震 あの時熊工は…」

と題して、定時制教頭の体験から「主体的な防災とPTA活動」についてお話をいただきました。富田先生には「富田先生には、PTAの藤井前会長からは、地域ボランティアの取り組みや学校の写真部生徒からの「災害で汚れた写真」を助けたという要望を地元と繋ぎその活動を支援したことなどについて、また、県立朝倉光陽高校PTA友永前会長からは、災害時に自分を守り、共に助け合う大切や、学校の特色を活かしたボランティア活動・地域貢献への取り組みについて、更に県立八女工業高校生徒代表として井手口保健委員長からは、生徒に対する災害に関する意識調査の結果や災害時の連絡手段などについてお話ししていただき、学校・生徒・PTAが協力して個人として、命を守り、全体として、命を助けるような支援をしていくのかなど協議が進められ、会場からは八女工業高校の発表にあった伝言ダイヤルの使い方についてユーチューブに

アップして欲しいというご意見もいただきました。アトラクションは、県立福岡講倫館高校ダンス部による「color」福岡講倫館らしさ」をテーマにした創作ダンスが披露されました。講演は、公益社団法人日本医師会 会長の横倉義武氏により「健康な社会を作ろう」と題して行われました。ご自身の医師としての歩み、医師会の役割、世界医師会について、学校保健推進について、人生100年時代に向けた健康長寿社会づくりなど、日頃聞くことができない貴重なお話が聞け、大変有意義な講演だったと思います。閉会式では、「九州は一つ」の合い言葉のもと、九高P連旗が福岡大会三根会長から次期開催県宮崎県連の黒田会長に引き継がれました。

午後、高校生の発表からスタート。鳥取県立岩美高等学校ブルー・マーティン・ジャズ・オーケストラの「街がスウィングする」をテーマに、軽妙なジャズ演奏から始まりました。大会の受付会場でも歓迎セッションとして、参加者の皆さんを迎えてくれました。続いて、鳥取湖陵高等学校吟詠剣詩舞部が、「戦国の武士(もののみぶ)を詠(うたう)」のテーマで、吟詠、扇舞を勇壮に演じました。最後は、鳥取県立八頭高等学校書道部の、大会テーマである「ひらけ翼ーはばたけ未来ー」をテーマとし、ダンスを取り入れた書道パフォーマンスがありました。鳥取県での書道パフォーマンスは、顧問の

の奥野貴史実行委員長が近畿各府県市へのお礼と開催に向けた意気込みを熱く語られました。心配した天候にも恵まれ、盛大に開催できた和歌山大会でした。また、1カ月後の全国大会京都大会も盛大に開催できるよう、近畿地区が一丸となって京都大会に協力することを誓い、和歌山大会を閉じました。



アトラクション

第63回九州地区高等学校PTA連合会大会福岡パリアよかつ大会は、「未来人財育成」新しい時代を切り拓け!」をテーマに九州各県から3,002名の会員が参加し、6月20日(木)・21日(金)の2日間にわたり福岡市の福岡国際

会議場、福岡サンパレスホテル&ホールで開催されました。20日(木)には、福岡国際会議場において九高P連の4委員会、理事会・総会が開催され、新しい時代・令和元年への第一歩を踏み出しました。懇談会は、ホテルニューオータニ博多に会場を移し、多くの関係者の参加のもと開催されました。

と題して、定時制教頭の体験から「主体的な防災とPTA活動」についてお話をいただきました。富田先生には「富田先生には、PTAの藤井前会長からは、地域ボランティアの取り組みや学校の写真部生徒からの「災害で汚れた写真」を助けたという要望を地元と繋ぎその活動を支援したことなどについて、また、県立朝倉光陽高校PTA友永前会長からは、災害時に自分を守り、共に助け合う大切や、学校の特色を活かしたボランティア活動・地域貢献への取り組みについて、更に県立八女工業高校生徒代表として井手口保健委員長からは、生徒に対する災害に関する意識調査の結果や災害時の連絡手段などについてお話ししていただき、学校・生徒・PTAが協力して個人として、命を守り、全体として、命を助けるような支援をしていくのかなど協議が進められ、会場からは八女工業高校の発表にあった伝言ダイヤルの使い方についてユーチューブに

アップして欲しいというご意見もいただきました。アトラクションは、県立福岡講倫館高校ダンス部による「color」福岡講倫館らしさ」をテーマにした創作ダンスが披露されました。講演は、公益社団法人日本医師会 会長の横倉義武氏により「健康な社会を作ろう」と題して行われました。ご自身の医師としての歩み、医師会の役割、世界医師会について、学校保健推進について、人生100年時代に向けた健康長寿社会づくりなど、日頃聞くことができない貴重なお話が聞け、大変有意義な講演だったと思います。閉会式では、「九州は一つ」の合い言葉のもと、九高P連旗が福岡大会三根会長から次期開催県宮崎県連の黒田会長に引き継がれました。

九州地区 福岡大会 FUKUOKA

九州地区 福岡大会 「未来人財育成 新しい時代を切り拓け!」 地区大会報告

九州地区 福岡大会 FUKUOKA

九州地区 福岡大会 FUKUOKA

九州地区 福岡大会 FUKUOKA

九州地区 福岡大会 FUKUOKA



九高P連旗の引継ぎ



研究協議 (鳥取県立鳥取東高等学校発表)

鳥取県立鳥取東高等学校発表の研究協議。ステージ上で発表が行われていた様子。

鳥取県立鳥取東高等学校発表の研究協議。ステージ上で発表が行われていた様子。

鳥取県立鳥取東高等学校発表の研究協議。ステージ上で発表が行われていた様子。

鳥取県立鳥取東高等学校発表の研究協議。ステージ上で発表が行われていた様子。

鳥取県立鳥取東高等学校発表の研究協議。ステージ上で発表が行われていた様子。

中国・四国地区 鳥取大会 TOTTORI 「ひらけ翼ーはばたけ未来ー!」 地区大会報告

鳥取県立鳥取東高等学校発表の研究協議。ステージ上で発表が行われていた様子。

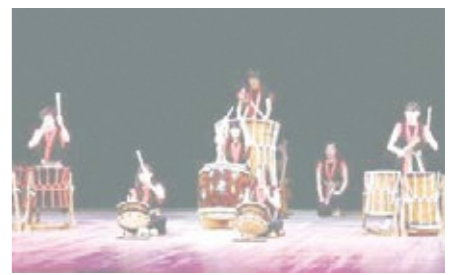
鳥取県立鳥取東高等学校発表の研究協議。ステージ上で発表が行われていた様子。

鳥取県立鳥取東高等学校発表の研究協議。ステージ上で発表が行われていた様子。

鳥取県立鳥取東高等学校発表の研究協議。ステージ上で発表が行われていた様子。

鳥取県立鳥取東高等学校発表の研究協議。ステージ上で発表が行われていた様子。

鳥取県立鳥取東高等学校発表の研究協議。ステージ上で発表が行われていた様子。



和歌山県立紀北農芸高校和太鼓部の皆さん



和歌山県立紀央館高校書道部のパフォーマンス

鳥取県立鳥取東高等学校発表の研究協議。ステージ上で発表が行われていた様子。



次期開催は奈良県

鳥取県立鳥取東高等学校発表の研究協議。ステージ上で発表が行われていた様子。

一般社団法人全国高等学校PTA連合会

組織概要

1 本法人の目的（定款第2条）

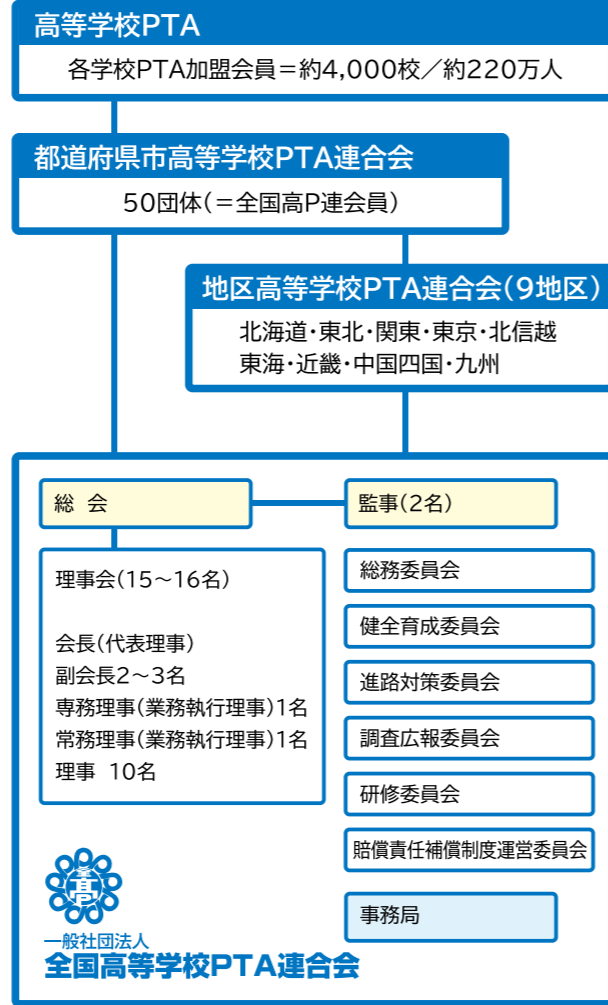
この法人は、高等学校PTA活動を通して社会教育、家庭教育の充実及び学校教育との連携に努め、わが国の次代を担う青少年の健全育成を図り、もって生涯学習社会の形成に寄与することを目的とする。

2 本法人の事業（定款第4条）

この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 高等学校PTA活動の質的向上に資する研究大会、講演会、研修会等の開催
(2) 高等学校PTA活動に関する調査研究
(3) 青少年の健全育成及び生涯学習に資する情報の収集と提供
(4) 広報紙等の刊行
(5) この法人の目的に沿い、顕著な業績をあげたPTAその他の団体及び個人の顕彰
(6) 社会環境（教育環境）整備のための活動、家庭の健全化を図る活動
(7) 賠償責任補償制度運営に関する活動
(8) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2 前項各号の事業は、日本全国において行う。



一般社団法人全国高等学校PTA連合会

会員概況

令和元年9月1日現在

Table with 6 columns: Association Name, Number of Member Organizations, Number of Schools, Number of Students, Number of Schools with Compensation System, and Number of Students with Compensation System.

令和元年度一般社団法人全国高等学校PTA連合会役員・委員会名簿

Table listing board members and committee members with columns for Position, Name, Role, Recommendation Area, Prefecture, and Remarks.

総務委員会

Table listing members of the General Affairs Committee with columns for Position, Prefecture, and Name.

健全育成委員会

Table listing members of the Health and Education Promotion Committee with columns for Position, Prefecture, and Name.

進路対策委員会

Table listing members of the Career Guidance Committee with columns for Position, Prefecture, and Name.

調査広報委員会

Table listing members of the Investigation and Publicity Committee with columns for Position, Prefecture, and Name.

研修委員会

Table listing members of the Training Committee with columns for Position, Prefecture, and Name.

賠償責任補償制度運営委員会

Table listing members of the Compensation System Management Committee with columns for Position, Prefecture, and Name.